

表-16 住宅の所有の関係別住宅に住む主世帯の住宅の規模及び1人当たり畳数の推移 - 茨城県(昭和40年~60年)

区分・年次	総数	持ち家	借家			給与住宅
			総数	公営・公団 公社の借家	民営借家	
1世帯当たり居住室数						
昭和40年	3.54	3.96	2.12	2.12		2.67
45年	3.95	4.46	2.39	2.64	2.32	2.94
50年	4.47	5.09	2.64	2.82	2.58	3.28
55年	4.76	5.44	2.66	2.97	2.56	3.37
60年	5.03	5.80	2.78	3.15	2.67	3.42
1世帯当たり畳数						
昭和40年	21.3	24.4	11.3	11.3		15.1
45年	23.8	27.4	12.7	13.4	12.5	16.6
50年	27.0	31.4	13.9	14.3	13.8	18.5
55年	30.2	35.1	14.8	15.8	14.5	20.4
60年	32.5	38.3	15.7	17.0	15.1	20.7
1人当たり畳数						
昭和40年	4.7	5.0	3.4	3.4		4.1
45年	5.7	6.1	11.2	4.0	4.2	4.9
50年	6.9	7.4	4.8	4.2	5.0	5.7
55年	8.0	8.5	5.4	4.8	5.7	6.8
60年	8.9	9.6	6.0	5.1	6.3	7.2

5 高齢者人口

(1) 高齢者人口の動向

65歳以上の人口が総人口の10%台に

昭和60年国勢調査の結果によると、本県の65歳以上の人口は278,503人で、総人口(2,725,005人)に占める割合が10.2%と始めて10%台にのった。

表-17は65歳以上高齢者人口の推移を地域別に昭和45年からみたものであるが、全ての地域で65歳以上人口の割合は一貫して拡大し、65歳以上人口の増加率は総人口の増加率を上回る勢いで拡大しており、その差は年々広がりつつある。

また、高齢化の推移を見ると、65歳以上人口割合対前回比が県全体では昭和55年が10.3%増となっており、これは、それまで高齢化が徐々に進んでいたものが、昭和50年代に入ってから急速に加速されていることを示している。さらに地域別に見ると、県北地域では昭和50年に9.6%増と高い割合を示し、他の3地域よりも早く高齢化が進み、また上昇の程度が高いことを示している。鹿行地域については、鹿島開発の影響による生産年齢人口の急増により一時的に減少となったがその後は拡大に転じている。県南地域は65歳以上人口、総人口ともに高い増加率であるため、他の3地域に比べると、高齢化のスピードはゆるやかであるが、昭和60年の対前回比は著しく上

昇している。

表-17 65歳以上高齢者人口の推移 - 茨城県・地域 (昭和45年~60年)

県・地域	県 人 口				65 歳 以 上 人 口				65歳以上人口の割合(%)				65歳以上人口の割合 対前同比 (%)		
	45年	50	55	60	45	50	55	60	45	50	55	60	45年 ~50年	50~55	55~60
茨 城 県	2 143 551	2 342 198	2 558 007	2 725 005	169 267	196 380	236 485	278 503	7.90	8.38	9.24	10.22	6.1	10.3	10.6
県北地域	972 037	1 029 737	1 082 539	1 123 638	72 782	84 564	101 865	119 769	7.49	8.21	9.41	10.66	9.6	14.6	13.3
鹿行地域	196 773	227 280	238 185	251 008	15 434	17 748	20 819	24 458	7.84	7.81	8.74	9.74	△ 0.4	11.9	11.4
県南地域	520 076	597 003	718 536	803 339	43 410	51 172	63 593	76 284	8.35	8.57	8.85	9.50	2.8	3.3	7.3
県西地域	454 665	488 178	518 747	547 022	37 641	42 896	50 208	57 992	8.28	8.79	9.68	10.60	6.2	10.1	9.5

(2) 高齢者世帯

一般世帯の27.5%は高齢者のいる地帯

65歳以上の親族のいる一般世帯数は、昭和45年の134,337世帯から50年153,466世帯、55年180,812世帯、そして60年には207,781世帯へと増加している。これを一般世帯総数に占める割合でみると、昭和45年(26.6%)、50年(26.1%)、55年(26.2%)、60年(27.5%)となっている。(表-18)これを地域別にみると県北地域27.0%、鹿行地域27.7%、県南地域25.5%、県西地域31.6%となっている。さらに市町村別にみると割合が最も高いのは緒川村53.2%で、以下七会村52.0%、桂村51.5%、金砂郷村51.2%、水府村51.1%の順となっている。逆にその割合の少ない市町村は、桜村の9.2%、以下鹿島町14.6%、取手市16.3%、勝田市16.4%、神栖町17.0%の順となっている。(図-14)

表-18 65歳以上高齢者のいる世帯の推移 - 茨城県 (昭和45年~60年)

区 分	実 数				割 合 (%)			
	昭和 45年	50年	55年	60年	昭和 45年	50年	55年	60年
一般世帯総数	505 295	587 018	690 887	756 629	100.0	100.0	100.0	100.0
うち65歳以上 高齢者のいる世帯	134 337	153 466	180 812	207 781	26.6	26.1	26.2	27.5

65歳以上の高齢者のいる世帯の核家族化が進行

65歳以上親族のいる一般世帯の内訳を家族類型別にみると、その他の親族世帯の割合が縮小しているのに対し、核家族世帯の割合は拡大している。これは、一般世帯に占める核家族世帯の割合（表-13参照）が縮小しているのとは対照的であり、65歳以上親族のいる一般世帯の核家族化が急速に進行していることがうかがえる。特にその中でも「夫婦のみの世帯」が大きく伸びており、高齢者夫婦のみの家族形態が増加していることを示している。

65歳以上の高齢者1人世帯が急増

65歳以上の親族のいる一般世帯のうち、1人世帯についてみると、昭和50年には8,196世帯（一般世帯総数に占める割合1.4%）であったが、昭和60年には15,945世帯（同2.0%）と10年間に2倍に増加したことがわかる。これを男女の割合でみると、男の1人世帯が3,404世帯（21.3%）、女の1人世帯が12,541世帯（78.7%）で、女の1人世帯が約8割を占めていることがわかる。（表-19）

表-19 65歳以上の親族のいる一般世帯の家族類型 - (昭和50年~60年)

世帯の家族類型	一般世帯数			割合 (%)			増減率 (%)	
	昭和50年	55年	60年	昭和50年	55年	60年	昭和50年 ~55年	55年 ~60年
総数	153 466	180 412	207 514	100.0	100.0	100.0	17.6	15.0
親族世帯	145 174	168 972	191 565	94.6	93.6	92.3	16.4	13.4
核家族世帯	26 935	37 021	48 583	17.6	20.5	23.4	37.5	31.2
夫婦のみの世帯	12 823	18 669	24 910	8.4	10.4	12.0	45.6	33.4
夫婦と子供	8 696	10 893	13 230	5.7	6.0	6.4	25.3	21.5
片親と子供	5 416	7 459	10 443	3.5	4.1	5.0	37.7	40.0
その他の親族世帯	118 239	131 951	142 982	77.0	73.1	68.9	11.6	8.4
非親族世帯	96	140	117	0.1	0.1	0.1	45.8	△16.4
1人世帯	8 196	11 300	15 832	5.3	6.3	7.6	37.9	40.1

表-20 地域別65歳以上高齢者夫婦及び単身者世帯数 - 茨城県・地域 (昭和60年)

地域	一般世帯	65歳以上の 高齢者夫婦 世帯数 ¹⁾	割合 (%)	65歳以上の 単身者世帯数	割合 (%)
茨城県	756 629	14 381	1.9	15 945	2.1
県北地域	330 171	8 398	2.5	8 771	2.7
鹿行地域	66 148	752	1.1	1 142	1.7
県南地域	223 152	3 377	1.5	3 618	1.6
県西地域	137 158	1 854	1.4	2 414	1.8

1) 65歳以上高齢者夫婦世帯数は夫婦とも65歳以上の世帯数である。

表-20は、どちらも65歳以上から成る夫婦だけの世帯（以下「夫婦世帯」）と65歳以上の単身世帯（以下「単身世帯」）についてみたものであるが、世帯数がほぼ同じであることがわかる。これを地域別の割合でみると、県北地域がともに県平均を上回る高い数値を示しているほかは、他の3地域とも同じような割合である。

これを市町村別にみると、「夫婦世帯」の割合の最も高いのが水府村の5.0%（98世帯）で、逆に最も低いのが桜村の0.4%（61世帯）であり、「単身世帯」では割合の最も高いのが御前山村の6.2%（85世帯）で、逆に最も低いのが桜村の0.5%（72世帯）となっている。（表-21, 22）

表-21 65歳以上の単身世帯数の割合の高い（低い）市町村（昭和60年）

順位	上位5団体				下位5団体			
	市町村名	一般世帯数	65歳以上単身世帯数	割合(%)	市町村名	一般世帯数	65歳以上単身世帯数	割合(%)
1	御前山村	1 378	85	6.2	桜村	14 910	72	0.5
2	緒川村	1 407	84	6.0	荃崎町	5 790	36	0.6
3	山方町	2 516	145	5.8	谷田部町	12 229	79	0.6
4	桂村	1 811	98	5.4	総和町	11 145	74	0.7
5	水府村	1 966	94	4.8	三和町	7 518	65	0.9

表-22 65歳以上の高齢者夫婦世帯数の割合の高い（低い）市町村（昭和60年）

順位	上位5団体				下位5団体			
	市町村名	一般世帯数	65歳以上の高齢者夫婦世帯数	割合(%)	市町村名	一般世帯数	65歳以上の高齢者夫婦世帯数	割合(%)
1	水府村	1 966	98	5.0	桜村	14 910	61	0.4
2	御前山村	1 378	66	4.8	東村	2 865	18	0.6
3	山方町	2 516	112	4.5	総和町	11 146	71	0.6
4	金砂郷村	2 756	117	4.2	谷田部町	12 229	80	0.7
5	桂村	1 811	76	4.2	鹿島町	12 824	91	0.7